

第101回 全国高校野球選手権
青森大会
 ▶第3日◀

逆転の野西 快勝発進

六ヶ所・六戸 リード守れず



【八学野西一六ヶ所・六戸連合】6回八学野西無死一、三塁、小原誠（左）が右中間へ勝ち越しの2点三塁打を放ち、壘上でガッツポーズ＝六戸メイブル

八学野西1002043 310
 六ヶ所・六戸 10020003
 (7回コールド)
 (八) 村田、成田、菅野、小原
 (六) 神、藤田、赤石、神一山本
 ▽三塁打 小原、塚根(八) 赤石(六) ▽二塁打 西野 2 (八) 赤石(六) ▽ボー ク村田(八) ▽捕逸 小原(八)
 ▽試合時間 2時間9分 (球審) 小西、塁審) 西村、蛸名、藤倉
 【評】八学野西は同点の六回無死一、三塁、小原の右中間三塁打で2点を勝ち越し。さらに、1死三塁として塚根の適時三塁打などで点差を広げた。六ヶ所・六戸は四回に神の適時打で2点をリードしたが、五回以降は、チャンスであと1本が出なかった。

小原勝ち越し打

○：八学野西は六、七回連合にコールド勝ち。勝ち二点三塁打を放った六ヶ所・六戸 越しの2点三塁打を放った。打線がつか



4回六ヶ所・六戸連合1死一、二塁、神大樹の左前打と敵失の間に、一走赤石大地（左）が本塁を陥れ、3-1と勝ち越す

がつて良かった」とほっとしていた。五回までを同点で終え、迎えたグラウンド整備の時間で「次のインニングが大事。気持ちを切り替えよう」と声を掛け合った。実際、六回は先頭の成田一稀から小原まで3連打。小原は「どつさに体が反応し、高めに浮いた直球を仕留められた」と誇りしげだった。次戦に向けて、小原は練習してきたことを徹底して「勝りたい」と張り切っていた。

5回から崩れる

○：六ヶ所・六戸連合は接戦の末、終盤に力尽きた。一時はリードする場面もあっただけに、主将の山本星也は、もう少し戦えたはずと悔やんだ。連合は2点リードの五回から崩れ始めた。五回に同点にされ、六回には4点を失った。打線も代わった相手投手の直球にタイミング合わず、引き離された。

2017年秋から連合を組み、練習を重ねてきた2校。特に六ヶ所の3年生5人は、両校の後輩を面倒見てきただけに思いも尽きお。山本は「みんないい選手。来年こそは悔いのないように」と願いを託した。

八学野西・佐藤拓弥(三)安打2打点。冬の練習で振り込んできたので打撃に自信があった。持ち味のミート力と粘り強さを生かした。六ヶ所・六戸・神大樹(六回途中で降板)「リードを守り切れなかった。スタミナ切れで打たれてしまい悔しい」